

がいようばん
概要版詳しく知りたい方向けの詳細版しょうさいばんもあります。小学校6年 ~ 高校1年^{相当}の女の子と
保護者の方へ大切なお知らせあなたと
関係のあるがんがあります

ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこるがんもあります。その1つに子宮けいがんがあります。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです^{注)}。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

注) HPVは一度でも性的接触^{せっしよく}の経験があればだれでも感染する可能性があります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが
がんにならないための手段

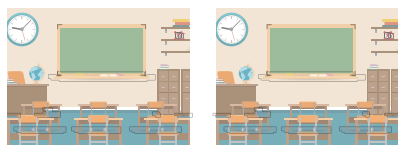
<何人くらいが子宮けいがんになるの？>

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,800人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、毎年、約1,200人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

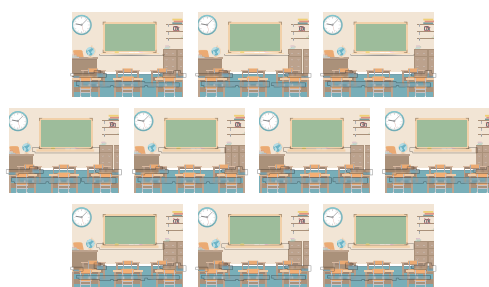


1クラス約35人の女子クラスとして換算^{かんさん}

<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり30人

10クラスに1人くらい



※国立がん研究センター がん情報サービス 2015年全国推計値に基づく累積罹患リスク、2017年累積死亡リスクより^{るいせき り がん}

子宮けいがん^{けい}で苦しまないために、できることが2つあります

詳細版
P4

① 今からできること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐ

ワクチンの接種を提供しています。

HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮けいがんを予防できると期待されています。

イギリス、オーストラリアなどでは女の子の約8割がワクチンを受けています。



② 20歳^{さい}になったらできること

HPVワクチンを受けていても、子宮けいがん^{けい}検診は必要です。

2年に1度

検診を受けることが大切です。



HPVワクチンの効果

詳細版
P5

HPVワクチンは、子宮けいがんの原因となる様々なHPVのうち、子宮けいがんをおこしやすい2種類のウイルスの感染を防ぐことができます。

そのことにより、子宮けいがんの原因の約50～70%を防ぎます。



HPVワクチンのリスク

詳細版
P6

多くの方に、接種した部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状^{しょうじょう}が起こることがあります。

筋肉注射という方法の注射で、インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。

ワクチンを接種した後に、まれですが、重い症状^{しょうじょう}注1)が起こることがあります。

また、広い範囲^{はん い}の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動^{ふ ずい うん どう}注2)といった多様な症状が報告されています。

ワクチンが原因となったものかどうか分からないものをふくめて、接種後^{しゅう ぐ}に重篤な症状^{じゅう とく}注3)として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約5人です。

ワクチンを合計3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

注1) 重いアレルギーや神経の病気

注2) 動かそうと思っていないのに体の一部が動いてしまう

注3) 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれています、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることもあります。



まずは、知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。

まずは、子宮けいがん^{けい しん}とHPVワクチン、子宮けいがん検診^{けん しん}について知ってください。

周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医にご相談いただくこともできます。



ワクチンを受けることを希望する場合は

詳細版
P.5,8

小学校6年～高校1年相当の女の子は、ワクチン接種が公費で受けられます^注。

今、日本で使われているワクチンは2種類あり、

病院や診療所^{しん りょう じょ}で相談し、どちらか一方を接種します。

ワクチンの種類によって接種の間隔が少し異なりますが、

どちらも半年～1年の間に3回接種を受けます。接種には、保護者の方の同意が必要です。

注) 公費の補助がない場合の接種費用は3回接種で約4～5万円です。

1回目、2回目に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

対象年齢の
女の子は公費

半年～1年の間に
3回接種

市町村からのご案内

<例>

① 接種場所

市内の契約医療機関 (〇〇市ホームページ <http://www.xxxxxxxxxx.lg.jp>)

② 接種費用

〇〇円

③ 接種に必要なもの

① 市民であることを確認できるもの (健康保険証など)

② 予診票 (契約医療機関又は市町村に備え付けています)

※保護者の署名が必要です

④ お問い合わせ先

〇〇市保健福祉部保健予防課 電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (午前〇時～〇時)

もっと詳しく知りたい方は

このご案内の内容をもっと詳しく説明している「あなたと関係のあるがんがあります<詳細版>」や、
その他のご案内をご覧ください。

厚生労働省 子宮けいがん



このご案内は、小学校6年～高校1年相当の女の子やその保護者の方に、
子宮けいがんやHPVワクチンについてよく知っていただいた上で、希望される方に接種していただけるよう、
おすすめするお知らせをお送りするのではなく、みなさまに情報をお届けするものです。